

陽の里

発行 令和2年1月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.142

テーマ 「さまざまな学びの場」



▲昭和51年、開設時の石碑に刻まれている「私たちの使命」

新年あけまして

おめでとーうございませう



社会福祉法人 新生会
名誉理事長 石原美智子

良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私たち新生会も昭和51年にこの世に誕生して平成、令和と時代が移り、人であれば中年に達したわけです。

誕生時も座学研修から始まり、ご利用者と接するようになってからは体験実習なども含めて学びの場を常に持つてきました。その他、国内は二泊三日の他施設研修、海外もオーストラリア研修を多くの職員が参加しました。国内外からも講師を迎えたり常に学びの姿勢は持ち続けました。

・「人」と関わる職場では、我々スタッフの「人となり」が問われます。単に仕事だと割り切ることの出来ない奥の深い職場だからです。

今でもありありと蘇りますが、サンビレッジ新生苑が創設され、まだご利用者のおられない時に、外部講師から学んでいた時、ある講師が「あなた方はとても恵まれた職場を選びましたね。お給料をもらって己の人生勉強ができるのですから」と言われたのです。本当にそうでした。自分自身を成長させるということは、自身の人生を豊かにすることだからです。

ご利用者にとってもご家族にとっても、私たち職員にとっても共に今年も良い年でありますように。

サービス依存より、「地域のAsset(資源)」づくり!



東京家政大学

人文学部教育福祉学科

准教授 松岡洋子

新年明けまして、おめでとうございます。

デンマークでは、戦後より国民負担率が7割にも届くような高福祉国家を樹立してきました。とくに、経済成長に伴う労働力不足を女性の社会進出によって補わない、それによって得られる経済成長の果実を、育児・介護に充てて福祉の充実を図ってきました。1960年代から90年代にかけて大きく社会は変わり、現在、所得税は50%を超え、消費税は生鮮食品も含めて一律25%です。しかし戻ってくる便益も多く、医療・介護は租税で賄っており、原則無料です。

こうしたデンマークにおいて、1980年代、高齢者福祉に大きな変化がありました。広く国民の声を集めた「高齢者政策委員会」

の報告書で、有名な『自己決定の尊重』『継続の維持』『持てる力の活用』から成る「高齢者三原則」が発表されました。1988年以降、高齢者施設の新規建設を禁止したのも、この報告書に拠ります。リハビリも盛んで、「その人の力」に焦点をあてる「背中を手を回したケア」が主流です。同時に「イーム・プライエン」と呼ばれる毎日複数回訪問する24時間在宅ケアを全国に整備していきましました。

こうしたデンマークにおいて、2013年「未来の在宅ケア」という政府報告書が刊行されました。高齢者が増え、税収の増加が見込めない未来に向けては、在宅ケアにも「パラダイムシフトを」と呼びかけています。つまり、買物ができないからと言って安易に

サービス提供するのではなく、「機能回復が可能かどうか」を見極めて、可能な人にはリハビリを！ということなのです。「リエイブルメント」は「もう一度できるようにする」という意味で、イギリス等でも近年盛んに進められています。

「リエイブルメント」には、日常生活の中での機能低下を防止するものと、骨折や脳卒中による退院後の回復を図るものの二つがあります。前者と後者の利用者割合はおおよそ3:7です。2015年、在宅ケアの前の「リエイブルメン



▲デンマーク ファクセ市における機能回復訓練

ト」が法制化されました。その際、目標設定はあくまでもその人の希望(自己決定)であり、「これまでもどおり料理を自分で作りたい」「ペットと散歩がしたい」など、「これまでどおりの暮らしや幸せ」に焦点が当てられます。リハビリがモチベーション高く、楽しくなされるというわけです。リハ職を含む家庭チームが家に入りリエイブルメントを進めますが、ある程度できるようになると、在宅ケアスタッフにポイントを伝えて、毎日の訪問介護の中で「自立」に向けての支援が継続できるというわけです。

新生会・新生メディカルの在宅ケアスタッフの方々と昨秋デンマークファクセ市を訪れ、リエイブルメントについて学びました。「ゼロコード訪問介護」に「リエイブルメント」の風が吹き、日本へ向けて、世界へ向けて、その知識と経験に基づくメッセージが発信されますことを祈念いたします。



デンマーク研修からの学び

情報共有のための工夫

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

総学科長 廣瀬 武

デンマークでは、多職種で情報共有を行うために様々な工夫がされています。一番印象に残っているのは、利用者の日常生活をカラートリアージでアクセスメントしていたことです。様々な職種が関わっているからこそ、利用者の状況をそれぞれの職種が専門用語を使って上手く相手に伝わりません。そこで「グリーン」自分でできる」「イエロー」介助があればできる」「レッド」できない」といったようにアクセスメントシートに着色し、利用者の日常生活の活動状況を、文章を読むまなくても色を確認するだけで、視覚的に理解できるように工夫



いました。そして、最初に紹介すべき部分は「イエロー」と評価されたところだと統一されていきました。

日本では、新生メディカルの介護・ラ針盤や、災害現場で救命の順番を決めるために導入されているカラートリアージとよく似ています。このカラートリアージを使い日々の介護やリハビリテーションの場で効率的かつシンプルに情報を共有していることに驚きました。もちろんカラートリアージだけでなくミーティングもあります。街を歩くと、さまざまな場所に誰とでも話しやすいように、どこにでもテーブルと椅子がありました。椅子に座り飲み物を飲みながら話している人も多く見かけました。多職種に「伝える」ためには伝え方も、物理的な環境も工夫をする。そんなデンマークらしさを沢山感じた研修になりました。

自信を持って 仕事をしよう

（新生メディカル 郷 春子）

『自分のことは自分でする』自助文化を国民が納得して実践する事を築いている。『リエイブメント』住み慣れた自宅での暮らしを再生する支援システムが多職種チームで実践されていた。専門職が動機付けと目標を決める過程でしっかりと生活や身体状況のアクセスメントを行い、本人の納得が得られる具体的な実行プランを多職種が共有して実践されていた。管理者曰く、本人がプログラムに乗れるか否かはスタッフの説明能力に掛るが『私たちのスタッフにはその能力がある』と言い切る。現場同行したスタッフの態度、言葉からも自信やプライドが伝わってきた。職場でよく聞く『これはいかな、自信が無い』との声、私はこの研修で自分たちが目指してきた事が間違いない歩みをしていることを確信した。

ファクセ市の評価システム SMARTM 目標【食べること、飲むこと】【移動】【排泄】【着替え】

等基本的な活動定義を見て「介護・ラ針盤と同じ！」と飛び跳ねたくなった。福祉先進国デンマークに負けずとも劣らないシステム『介護・ラ針盤』で生活状態を把握して過不足なく自立支援していた。しかし、多職種との連携や本人の納得に繋がる具体的な目標と実行プランに活かせていたかと思われると十分ではない。『大丈夫！できている』と背中を押し実感できることを形にするために、『介護・ラ針盤』を活用し専門職間で効率的で効果が見える『取り組みをしていくことが課題である。本人参加型の土壌を作るためには、動機づけによる早い段階でのリハビリ効果が生活の再生に生きていく』『説得より納得』の実践に繋げたい。



※「介護・ラ針盤」は排泄・食事・着替えなどの具体的な生活行為を自立性・実施状況・能力評価をし、入力するだけで必要な支援を簡単に導き出す仕組みです。

ほづみえきまえ

11/21(木) ほづみ駅前アンキーノ入居者の恒例『秋のドライブ』金華山周辺散策～食べ歩きに出かけて来ました。



ぎふ 12周年記念イベント

10月26日

木育&食育 共育ひろば

を開催しました。“こよみのよぶね”3月船和紙貼りワークショップ&健康おやつ試食会に子供から高齢者の皆さんが製作頂き、大盛況でした。ありがとうございました。

12月22日(冬至)に長良川に「3」の行灯を流します。是非、ご覧下さい。



みずほ 9/14 瑞穂敬老会・秋祭り



アルパの演奏



中・高・大学生と多くの学生ボラに参加頂きました。

おおがき

芋ほり 学生や園児と一緒に芋ほりを行い、美味しく頂きました。



和太鼓の演奏



こうしゃのないうごころ

「大人の遠足」 介護予防教室の共同企画として、今年は観光列車「ながら」に乗って、秋の郡上八幡へ。池田町を朝早くに出発し皆さん、長距離が心配でしたがお互いに声掛け助け合い楽しむことができました。フレンチ料理も美味しかったです。満足・満足!



もやいみずほ

RUN伴
SV瑞穂チーム



みやじ

戦争体験の語り部 (2019.11.5)

小学生とのちやぼぼ交流会で、97歳のご利用者さんが戦争体験を生の声で聞かせて下さいました。実際に壮絶な戦争体験をして来られた利用者さんの生の声に、子供達は真剣な眼差しで聞き入っていました。



ひろどり



陽の里祭り

今年も盛況でした! 陽の里健康祭り!

さんびころ



ひんせいえん

今年、初めて施設内文化祭を行いました。みなさんと作品鑑賞したり、一句創作したりと職員と共に散策を楽しんでいます。

